

農業技術センターニュース

目 次			
シシトウガラシに発生したファイトプラズマ病	… 1	ダリアにおける冬春出し作型に適した新品種	… 4
小ネギの蒸発散量の把握	… 2	極早生良食味水稻‘よさ恋美人’の窒素施用 法	… 5
収穫後の近赤外光照射がミョウガの腐敗に及ぼ す影響	… 3	ナスの黒枯病抵抗性育種のための素材の探索	… 6

センターニュース発刊 100号に寄せて

農業技術センターニュースをご愛読いただき、ありがとうございます。おかげさまで、平成4年3月に第1号を発刊して以来29年目を迎え、このたび記念すべき第100号を刊行する運びとなりました。これまでご支援を賜りました方々に、誌面を借りて厚くお礼申し上げます。これからも、皆様のお役に立てますよう、農業技術センターの最新の研究成果をわかりやすく紹介してまいります。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。(農業技術センター所長 竹内繁治)



シシトウガラシに発生したファイトプラズマ病



写真1 葉の症状



写真2 果実の症状

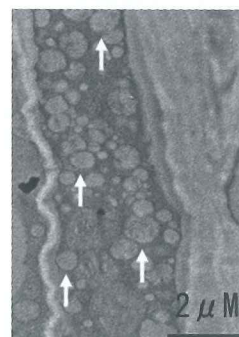


写真3 細胞内のファイトプラズマ

高知県内のシシトウガラシ、ピーマン栽培では、1990年代頃から葉や果実が退緑する（色が薄くなる）障害が発生していました（写真1、2）。本障害が発生した株の生長点付近を健全なピーマンに接ぎ木すると、健全なピーマンから新たに発生した枝に同様な障害が発生することから、本障害は何らかの病原体によって引き起こされている可能性が高いと考えられてきました。しかし、その病原体については長年不明でした。

今回、県中西部の本障害の常発圃場から退緑した葉を採取して、電子顕微鏡観察を行ったところ、篩部細胞内にファイトプラ

ズマ（細菌の1種）が観察されました（写真3）。さらにDNAを解析したところ、日本では未報告のファイトプラズマの1種であることがわかりました。以上の結果から、このファイトプラズマが本障害の病原体であると考えられました。他の作物では、ファイトプラズマ病はヨコバイ類によって媒介されることが多いのですが、シシトウガラシやピーマンのファイトプラズマ病を媒介する昆虫は今のところ不明です。今後、媒介虫を明らかにして、効果的な防除方法を検討する必要があると考えています。

(元病理担当 下元祥史 088-863-4915)